

研修プログラム

プログラムの特徴

プログラムの名称	医療法人名南会:在宅医/総合診療医育成・地域包括ケア研修プログラム		プログラム・コーディネーター*1	大森 久紀
研修期間*2	1年		受け入れ人数*3	1名
代表施設名*4	名称	医療法人名南会 名南診療所		
	住所	(〒457-0862)		
	電話番号	052-691-2497	問い合わせ先メール	ohmoring42195@gmail.com
研修施設名2*5	(指導医)	研修施設名3	指導医()	
研修施設名4	(指導医)	研修施設名5	指導医()	
研修協力機関*6	①名南病院(急性期・地域包括ケア病棟) ②名南ふれあい病院(回復期リハ病棟・介護療養病棟) ③名南かたらいの里(介護老人保健施設)			
研修協力医	①		②	
研修プログラムの特徴(自由記載)	<p>在宅療養支援診療所での在宅医養成プログラムが基本ですが、かかりつけ医としても幅広く地域に貢献できる総合診療医の養成を目指します。法人内にハード面では急性期・地域包括ケア・回復期ケア・介護療養病棟を有する2病院と介護老人保健施設があり、ソフト面でもリハビリ・介護・(訪問)看護スタッフ、ケアマネ、MSWなどの人的資源にも恵まれているという特徴があります。法人外とも積極的な連携をはかりながら地域包括ケアを展開しています・・・といつつ実はこじんまりしたアットホームな診療所です。</p> <p>研修では在宅から入院になった患者を病棟でも主治医として引き続き受け持つことが可能で、急性期の治療から退院、また在宅に帰ってから継続性思ってフォローすることができることも特徴です。また在宅導入前から地域包括ケア病棟や回復期リハ病棟で主治医になって退院調整をすることも検討します。</p> <p>法人内外の連携によるチームアプローチを重視した地域包括ケアによって地域に根差して地域に貢献する医師を養成するプログラムです。在宅緩和ケア、在宅NSTに力を入れています。</p>			
ポートフォリオ領域(研修において特に力を入れている領域について)*7	1.老年医学	リハスタッフ(PT・OT・ST)、管理栄養士と連携しながら在宅リハ、嚥下障害、栄養障害にアプローチしています。技術的なこと理念的なことだけでなくチーム医療についても学ぶ場になります。		
	2.緩和医療学	非がん疾患も含めた緩和ケア(エンド・オブ・ライフケア)を重視、十分な疼痛その他の症状管理、スピリチュアルな面のサポートにも心がけながら看取りまで責任をもっていく姿勢を大切にしています。		
	3.チームアプローチ	カンファレンス出席または開催、担当者会議への出席、困難ケースへのアプローチするなど、法人内外のケアマネや訪問看護ステーション、病棟スタッフ等との多職種連携を重視しています。		
	4.在宅医療の諸相	在宅医療の導入から看取りまで、急性期のアセスメントや治療、入院適応の判断を主治医として、チームのメンバーとして行う力量をつけ、入院後も病棟主治医として受け持つことも可能(お勧めです)、病診連携だけでなく、継続性を重視した総合診療医的な医療を経験できます。		
	5.その他	生物・心理・社会モデル、臨床倫理、ナラティブ・ベースド・メディシン、病診連携、地域づくり		
研修施設概要				
研修施設名	医療法人名南会名南診療所		研修受入人数*1	1-2人
住所	(〒457-0862)名古屋市南区内田橋2-9-3			
電話番号	052(691)2497		F A X	()
メールアドレス	ohmoring42195@gmail.com		ホームページ	http://www.meinan.or.jp/clinic/meinan/
医師数(常勤/非常勤)	1人/4人(訪問診療のみ)		在宅患者総数(年間)*2	250人
がん患者数(年間)*2	30人		在宅看取り数(年間)*2	20人
外来診療の有無	有		入院施設の有無	無
外来人数(一日平均)	20人		ベッド数	名南病院に120床
研修資源*3(関連施設・事業所)	名南診療所居宅介護支援事業所、名南訪問看護ステーションきずな、名南診療所通所リハビリ、名南会通所介護「庵」、名南訪問介護きずな、訪問リハビリ(STも含む)、訪問栄養指導、調剤薬局/訪問服薬指導等			
在宅で実施可能な手技	診断(検査)*4	(自宅)		(外来)
	治療*5	血液・尿検査、血液ガス、細菌培養検査、心電図、エコー、細径内視鏡(嚥下・胃瘻) レントゲン、エコー、骨密度、(法人内病院にて内視鏡・生理検査、CT、MRI等)		
	静脈点滴、皮下輸液、中心静脈栄養、経管栄養管理(胃瘻、経鼻胃管等)、在宅緩和ケア(オピオイド持続皮下注等含む)、HOT、NIP、気管切開管理、人工呼吸管理、褥瘡管理、腹水・胸水穿刺、褥瘡治療(PICO=陰圧閉鎖療法等含む)、外科医・小児科医定期訪問ありコンサルト、併診も可能。			
指導医氏名	①大森久紀			
指導医略歴	①大森久紀 1984年名古屋市立大学卒、愛知民医連で全科ローテートの初期研修後、名南診療所で副所長の役割を兼務しながら名南病院に勤務/研修、診療所から入院した患者は病棟主治医として受け持ち退院したら外来または在宅でまた継続してフォローするというパターンを継続しながら呼吸器内科医として病棟医を務めた。2003年より名南診療所に所長として赴任、何でも相談できるかかりつけ医と訪問診療のエキスパートとして地域医療に貢献しようと奮闘中です。日本プライマリケア学会指導医、日本在宅医学会専門医、医師会認定産業医、健康スポーツ医。			